

神奈川県立博物館調査研究報告
自然科学 第10号

Research Report of
the Kanagawa Prefectural Museum
Natural History No.10

ニホンザルの今・昔・未来 －野生動物との共存を考える－

The Way of the Coexistence with Japanese Monkeys

- The Research on Damage Control, Management and Environmental Education -

神奈川県立生命の星・地球博物館
KANAGAWA PREFECTURAL MUSEUM OF NATURAL HISTORY

Odawara, Kanagawa, JAPAN

March, 2000

はじめに

ニホンザルの今・昔・未来—研究調査報告書によせて—

日本という人口過密地でのニホンザルの広域分布は、世界に例を見ない。それだけに、ニホンザル研究は霊長類学にあって極めて大きな特色を持つことになり、各方面からの注目を集める。

近年、サルの仲間の生態研究はサル主体に進められ、研究者自身がサル社会に深く踏み込む現地調査型で成功を収めてきたことが高く評価されよう。わが国では、加えてヒト生活との接触が重要課題として浮上してきており、獣害の実態やそれに伴うサル集団のあり方が解明されることは、サル学にとって新しい局面・分野を招くものであると考える。

今後は、その結果を踏まえ、ヒトとヒト社会側からのサル生活圏へのインベイジョン、という逆の視点での解析も欠かせない。ヒトと野生動物との関係は、「有害動物」、「獣害」、「駆除」、といった一方的な評価姿勢のみで終始することは許されない。サル社会の動きに反映されるヒトとサルとの重複圏のダイナミズム解明に向けて、本研究がさらに大きく前進することを心から期待するものである。

神奈川県立生命の星・地球博物館

館長 濱田隆士

目次

はじめに	
館長 濱田隆士	1
口絵写真	3
序 言	
広谷浩子	5
第 1 部 サルと人との関係の基礎調査から	
神奈川県西部地域のニホンザルの生息状況	
岡野美佐夫	7
東京都におけるニホンザル管理への取り組みの現状と課題	
白井啓	13
三重県における野生ニホンザルの分布と保護・管理の現状	
室山泰之	17
愛知県三河地方に生息する野生ニホンザル・市川群の10年間	
浜井美弥・金森正臣・高橋美裕	21
第 2 部 被害対策と保護管理	
西湘ニホンザル個体群の被害対策と保護管理について	
広谷浩子	27
過去から学ぶ被害防除と保護管理の展開	
三浦慎悟	33
被害防除技術のレビューと実践	
室山泰之	37
第 3 部 野生鳥獣をとりまく社会	
神奈川県におけるワイルドライフマネジメントシステム	
羽山伸一	41
ニホンザル研究者による保護活動	
渡邊邦夫	45
人はサルとどのようにつき合ってきたか	
三戸幸久	51
第 4 部 自然観と環境教育	
自然観と環境教育ー環境教育の実践現場からー	
金森正臣	57
環境教育にインターネットをどう使うか	
小澤祥司	61
現代日本人の自然観を探るー65歳以上男女による日本産野生動物の認知度分析ー	
広谷浩子・広谷彰	65
農業者による野生生物保護システム「自然管理農場」と	
ネットワーク構想ーオランダの農業環境協同組合を参考としてー	
松木洋一	71